

## **なえどこ林業女子@東京 第1回セミナーレポート**

日時: 2011.12.09 19:00~

場所: 品川会議室

テーマ: 経営者から学ぶ~林材業の現状とこれから

ゲスト: 三幸林産 馬田社長

### **1. はじめに一なえどこ林業女子@東京の紹介**

なえどこ林業女子@東京の今後の位置づけは「異業種を巻き込む+ 林業を元気にしていこう」という二本立てです。

### **2. 三幸林産社長さんより話題提供**

・新木場で木材業をやっている三幸林産社長の馬田さんは3代目。初代は福井県から東京の深川で材木屋修行を機に独立に至りました。

・深川の木場から新木場へと多くの材木屋が移転する時期があり、当時新木場は場所として不便であったが移転することを決意。その背後にあった移転理由としては、皆が行くということに加え、深川の道路で積んだり運んだりを行うことに対する危険性から判断したとのこと。その結果、新木場に材木屋が集まることで、店舗間の競争が激しくなり、材木屋の淘汰が始まりました。

#### **<馬田さんはどんなひと?>**

・前職はブライダルで、テーマは幸せのお手伝いでした。そこから現職への転職のきっかけは、ブライダルでお世話をしたお客さんとは長い関係を築くことができないという点にありました。式が終わって「ありがとうございました」の一言で関係が終わってしまうということ、リピートが(原則)存在しない世界です。気に入ったらお客さんがまた来てくれるという商売のほうが自分に合っているとあるとき思い、転職を決意!

材木屋は先代の経営を見ながら大きな魅力を感じていなかったのも、大工になろうと思っていたところ、親からの「継いでくれ」という思いに応える形でデビューしたとのこと。

### <三幸林産と馬田社長の歩み>

・当時、三幸林産に対しては新木場の中でも最低だと思っくらい汚いと感じた所からのスタート。まずはお客さんを見つけることが課題だったので、どこにいるか徹底的に調べたそうです。

・必死になる中で見えてきた問題点。それはほとんど手形商売でなりたっているということで、中には何ヶ月も貸し込んでもらえないということも。

### <会社の経営戦略>

① まずは自分の会社をアピールしよう、とのことで値下げを実行

→ 値下げ競争になってしまい、自分が安値で売り込みすることによって、他社にも悪影響を及ぼすことに気がつき、売り込みを辞めた。

② どうしたら、お客さんがうちの会社を見てくれるかという目線

→ 特色を生みたい!

### [機械化というキーワード]

#### ポイント

・丸太から板を作るためには、製材した大きなブロック ~機械~> 断面から板にする、という工程。この機械の部分に関して、材木は用意するが、加工機は持っていなかったので外部発注していた。

＝つまり、材木のストック、板のストックと言うストックの2重化が生じることに。。。

・材木をストックするということは、常に現金化できないストックを抱えているということで、リスクが大きい。

:ストックを持つことによるリスクを減じることと、現金としてではなく手形で処理される分をできるだけ減らすことを目的として、機械の導入を行った。

- ① **機械**: 中古+新品の組み合わせにより、設備投資資金は 3000 万円
- ② **PC**: 事務処理の効率化。当時木材用の会計ソフトは汎用性がないことで高く、100 万した。

[モチベーションは**新木場での 1 番を目指す**ということ]

・売上規模は変えず、売る材木の中身の向上を目指した。木が好きだ!という思いが原点。

[材木屋をなぜ東京でやるのか]

・地方で、広い土地で、バンバン展開すると確かに規模は大きくできる。その中で新木場で材木屋をやることのいいところは、材木屋が集まっており、各材木屋、問屋が得意分野を持っているという点にある。

⇒自分で材木を持たなくてもいいという最大のメリット

⇒在庫のない商売は、ストックをもつリスクを減らすことができる。全体でそのリスクを分散しているという状態になる。

[乾燥というキーワード]

・現在多くの現場に共通して言われている理論は材木は低温では乾かないという説。だから、高温乾燥が行われ、80 度の条件でコンテナで乾燥させている。

この際に設備として、ボイラーが必要で、それに伴って灯油、重油をストックする場所も必要となる。

・馬田社長が材木について調べる上で、30~40 度で乾燥させる、低温乾燥で乾いているという事実に直面した。

・だが、実際にお客さんに対して営業を行う上では、研究機関でやったのか？品質保証できるのか？という疑問をぶつけられる。

それに対して馬田社長の回答は「木以上でもなく、木以下でもない」という一言に尽きる。

実際に全部を自社では引き受けられない。そして100年前でさえ乾燥機はなかったという事実があり、過去に低温乾燥の木材を用いて建造された奈良の五重塔などの建造物に対して危険をあなたは感じるかという話に落とし込める。

安全性という議論は乾燥方法によるものではなく、数値よりも歴史によって既に証明されているのではないか。

・今後は低温乾燥という手法が、本当にいいという事実を証明していきたい、とのこと。

(文責: 杉山沙織)